



2025-26 年度
福山西ロータリークラブ

例会情報

第1627回(11)

会 長 河 村 直 孝 幹 事 小 林 崇

クラブ会長テーマ



「 明るく楽しくみんなで奉仕 」

日 時	2025 年 10 月 7 日 (火) 12:30 ~
場 所	福山ニューキャッスルホテル
例会行事	点 鐘 ・ ソング 「君が代 ・ 奉仕の理想」 ゲスト・ビジターの紹介 (出席報告参照) 会 長 報 告 幹 事 報 告 出 席 報 告 S A A 報 告 ス マ イ ル 報 告 プ ロ グ ラ ム 情 報 そ の 他 報 告

その他情報	メークアップ情報 (来週分)
	メークアップ情報 (再来週分)
	今後の行事予定
	クラブ活動報告



**UNITE
FOR
GOOD**

【 会 長 報 告 】



皆さま、こんにちは。

秋の気配が深まり、朝夕の風に爽やかさを感じる季節となりました。

さて、今月は「米山記念奨学事業」についてご紹介いたします。

米山記念奨学事業は、日本のロータリーが独自に展開する国際奉仕活動であり、海外からの優秀な留学生に対して、学業と生活の支援を行う奨学制度です。

その目的は、日本と諸外国との相互理解と友好を深め、将来の国際社会に貢献する人材を育成することにあります。

事業の使命

将来、日本と世界を結ぶ「懸け橋」となって国際社会で活躍し、ロータリー運動のよき理解者となる人材を育成することです。これは、ロータリーの目指す「平和と国際理解の推進」そのものです。

日本のロータリーの創始者、故・米山梅吉翁の偉業を記念し、後世に残るような有益な事業を立ち上げたい

1952年東京ロータリーが発表したのは、海外から優秀な学生を日本に招き、勉学を支援する「米山基金」の構想でした。そこには、二度と戦争の悲劇を繰り返さないために、国際親善と世界平和に寄与したいという、当時のロータリアンたちの強い願いがあったのです。

「将来の日本の生きる道は平和しかない。その平和日本を世界に理解させるためには、アジアの国々から一人でも多くの留学生を日本に迎え入れて、平和日本を肌で感じてもらうしかない。それこそ、日本のロータリーに最もふさわしい国際奉仕事業ではないだろうか」

（「ロータリー米山記念奨学金史」より）

この事業は、単なる経済的支援にとどまらず、ロータリアンとの交流を通じて、異文化理解・人間的成長を促すことを重視しています。奨学生は、やがて母国に帰り、各分野で活躍する中で、日本との懸け橋となってくれる存在です。

福山西ロータリークラブでも、これまで多くの米山奨学生を迎えてきました。彼らとの交流は、私たちにとっても学びの機会であり、友情と信頼を育む貴重な時間です。今日は、奨学生のカツインさんの卓話です。

彼女の生い立ちやこれからの目標を興味深く聞きたいと思います。

最後に、季節の変わり目です。どうぞご自愛いただきながら、今月もロータリー活動を共に楽しみましょう。

ありがとうございました。

【 幹 事 報 告 】



No.	内 容
1	第 2710 地区事務局 ・ 公式訪問についてのお願い ・ 訃報のお知らせ
2	米山記念奨学会より ・ 2024 年度 事業報告
3	松永 RC より ・ 創立 60 周年記念チャリティーゴルフ大会のお知らせ

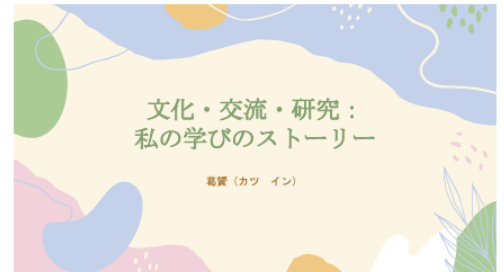
【プログラム情報】



《米山記念奨学生 卓話》



葛 贇 (カツ イン) さん
国 籍 : 中国
学 校 名 : 福山大学 経済学
部
国際経済学科 4 年生



自己紹介



名前: 葛贇 (カツ イン)
出身: 中国・江西師範大学 (日本語専攻)
2023年より福山大学に留学
ダブルディグリープログラム参加
現在: 福山大学 経済学部 国際経済学科 4年生

皆さん、こんにちは。本日はこのような貴重な機会をいただき、本当にありがとうございます。私は奨学生として、日頃から多くのご支援をいただいております、心から感謝しております。今日はその感謝の気持ちを込めて、これまでの私の生活や学びについて、少しご報告をさせていただきます。

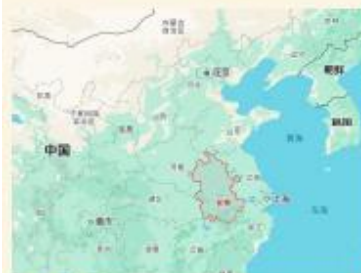
改めまして、葛贇と申します。

中国の江西師範大学で日本語を専攻し、2023 年から福山大学とのダブルディグリープログラムに参加して日本に来ました。現在は福山大学経済学部 国際経済学科の 4 年生です。 本日の発表では、まず私の故郷・安徽省について、次に日本での生活や交流活動について、そして最後に学習や研究について、この三つのテーマでお話したいと思います。

どうぞよろしくお願いいたします。

みなさん、次に私のふるさと「安徽省」を紹介したいと思います。

故郷・安徽省



雲海

安徽は上海の近くにあるんですけど、海に面していないので、国際的な貿易はあまり盛んじゃなくて、日本ではあまり知られていない地域かもしれません。でも、私は安徽の歴史的な建物や自然の景色はすごく魅力的だと思っています。実は安徽って、中国の南と北のちょうど境目にあって、だからこそいろんな地域の文化が混ざっているんです。



徽派建築（白い壁と黒い瓦が特徴）

私の故郷は安徽の南部にあって、そこで一番有名なのは二つの景色です。一つ目は高い山の上に広がる雲海です。山の上から見ると、雲が海の波みたいにわーっと流れていて、本当に迫力があります。もう一つは「徽派建築」と呼ばれる白い壁と黒い瓦の建物です。シンプルな色使いなんですけど、水墨画みたいでとても美しいんですよ。

ただ、写真だけではなかなか雰囲気伝わらないと思うので、ここで短い動画をお見せします。ぜひ、実際の安徽の風景を感じてみてください。

日本に来てから、私は本当にたくさんの国際交流や文化交流の活動に参加することができました。大学での交流活動だけでなく、広島国際センターが主催する文化交流にも参加しました。特に印象に残っているのは、広島で日本の伝統芸能である「神楽」を鑑賞したことです。舞台に立ったのは中学生のみなさんだったのですが、その演技はとても迫力があり、

正直に言って大人顔負けで、本当に驚きました。日本の中学生や高校生のクラブ活動の発表は、想像以上にプロフェッショナルで完成度が高く、これが日常的に学校で育まれているのだと思うと、とても感銘を受けました。こうした活動を通して、日本では若い世代が自然に、そして生き生きと伝統文化を受け継ぎ、広めていることを実感することができました。私自身も和服や茶道を体験させていただき、とても貴重で楽しい経験になりました。



また、9月には広島 RAC の千羽鶴例会にも参加しました。その時、広島平和記念資料館を初めて訪れ、核爆遺跡を見学しました。展示や資料から受けた衝撃はとても大きく、今も心に深く残っています。国際学生として日本で学ぶ立場から、平和の大切さをより強く感じ、これから自分も平和のために少しでも貢献できるよう努力したいという気持ちが、一層強まりました。

日本での生活と活動



広島国際センター：文化交流活動



千羽鶴例会



ニュージーランド研修

さらに、今年の3月には福山大学の先生や学生のみなさんと一緒にニュージーランドで研修を行いました。林肯大学では農業や経済について学び、大学の農場も見学しました。滞在中はホームステイを経験し、地元の人々と直接交流することができました。授業や見学だけでなく、日常生活を通して現地の文化に触れられたことは、とても特別な経験だったと思います。例えば、ホストマザーが

友人の農場に連れて行ってくださり、そこで乗馬を体験したことは忘れられません。道で馬に乗って移動している人を見て「自分もやってみたい」と話したら、すぐに体験の場を作ってくださったのです。その温かい気遣いに感動しましたし、異文化交流の楽しさを心から実感しました。



ホームステイ

学習・研究



高齢化と少子化の問題をきっかけに、私は介護分野での技術活用、特にAIやICTによるスマート介護について学び始めました。授業で学ぶだけでなく、現場での実態や課題も意識するようになりました。

次に、私の学習と研究についてお話しさせていただきます。中国の江西師範大学で勉強していたとき、授業で日本の少子高齢化問題について学ぶ機会がありました。先生と一緒に、中国でもこれから進む高齢化の中で、AIやロボットなどの技術が将来の介護に役立つのではないか、と議論したことが、研究への大きなきっかけとなりました。その経験をもとに、私は仲間とチームを組み、全国大学生課外学

術コンテストに挑戦しました。テーマは「介護サービスへのAI導入」です。私たちは1年以上かけて複数の都市を訪問し、700以上のアンケート調査を行いました。調査では、高齢者の介護ニーズや、介護機関での技術活用の現状などを詳しく調べました。そのデータをもとに社会調査レポートを作成し、介護人材の育成、都市と農村の格差の是正、データシステムの導入など、いくつかの提案を行いました。ありがたいことに、私たちの研究成果は省レベルの重点プロジェクトにも採択されました。一方で、この活動を通して自分の不足もはっきりと見えてきました。経済学や公共政策の知識がまだ十分でないこと、またデータ分析のスキルも改善の余地があると痛感しました。だからこそ、日本に来てからは、この分野をさらに学び、研究を深めたいと思うようになりました。



その経験をもとに仲間とチームを組み、全国規模のコンテストで「介護サービスへの技術導入」をテーマに研究を行い、1年以上かけて複数の都市で700件以上の調査を行い、介護ニーズや技術活用の現状を分析し、省重点プロジェクトに採択されました。



現在は経済学部で勉強しながら、将来は大学院に進学し研究を続けたいと考えています。日本は少子高齢化の進行に伴い、介護人材不足や介護保険制度の財政問題に直面しています。私は、ICTの導入が介護サービスにどのような影響を与えるのか、具体的にはサービスの質や利用者の満足度、コスト削減に効果があるのかを調べ、持続可能な介護のあり方を探求していきたいと思っています。

この夏、9月には横浜国立大学社会科学府、北海道大学公共政策大学院、そして京都大学公共政策大学院の入試を受けました。横浜国立大学と北海道大学には合格し、京都大学については、先日面接を受けたばかりなので、現在結果を待っているところです。

最後になりますが、米山奨学会の皆様から心から感謝を申し上げます。半年間、クラブの活動に参加し、多くの学びとサポートをいただきました。特に岡崎さんと三ヶ島さんには、いつも温かくご指導、ご支援いただき、本当にありがとうございました。これからも感謝の気持ちを忘れず、勉強も研究も精一杯続けていきたいと思っています。ご清聴ありがとうございました。



【その他報告】



《各種表彰等》

【誕生日】



《 10月14日生まれ 渡邊 祥子 さん 》

《 10月17日生まれ 梶原 啓子 さん 》

《 10月21日生まれ 石川 真吾 さん 》

【皆出席】



《 皆出席連続2年 奥野 充喜 さん 》

【 クラブ 活 動 報 告 】



特にありません。

**UNITE
FOR
GOOD**

2025-26 年度 RI 会長メッセージ